

研究成果報告書

1. 研究概要

本実証研究では、教職員支援と保護者支援それぞれを、オンラインと対面を組み合わせながら実施し、それぞれで得られた知見を結びつけながら効果的な相談支援体制を構築する。教職員支援については、個別相談（教職員側からの申し出を前提とするもの）と「先生向けギフトッド相談会」（アウトリーチ型）の両者を実施しつつ、情報の匿名化を行った上で教職員向けのウェブサイト積極的に知見を還元し、情報の普及につとめる。保護者支援については、随時相談が行えるように当事者によるピアサポートを中心とした相談支援とともに、専門家や当団体で学生スタッフとして活動する特異な才能を持つ当事者による勉強会を実施する。教職員・保護者ともより個別的な焦点化された支援を必要とする場合は、専門家によるケース会議形式の支援も実施する。また、これらの事業は精神科医と特別支援教育の専門家が積極的に関わり、十分な質の担保を行いながら実施されるものである。

2. 研究内容

令和5年度の実証研究の内容については、以下の図（事業申請時の図に青字で補足を入れたもの）の通りである。

教職員支援	保護者支援
<p>日々の子どもへの指導や支援の方策をはじめ、カリキュラム・マネジメントなどの相談に応じられる体制を整える。</p> <ol style="list-style-type: none">1 教職員向け個別相談<ul style="list-style-type: none">週1回オンラインを原則とした個別相談（30分～1時間）。専門家1名との個別相談を原則とし、予め相談シフトを公開することで相談内容と専門家の専門内容のマッチングを図る。 希望によりメールでの相談も対応可能とした。 特に支援を有するとき専門家を派遣し子どもの実態を踏まえたケース会議等の形式で相談支援に応じる（月2件程度を想定） →令和5年度は対象ケースが無く実施なし2 「先生向けギフトッド相談会」<ul style="list-style-type: none">特異な才能を有する児童生徒が直面する困難についてのレクチャーと相談会を合わせたもの。実施頻度は月1回で、対面とオンラインをそれぞれ隔月で実施する。3 EDUPEDIAでの相談内容と対応の発信<ul style="list-style-type: none">申請団体の運営する教職員向けのウェブサイトEDUPEDIA（月50万以上PV）上に、相談事業で寄せられた相談内容とその対応について公表する。→現在準備中。公開は令和6年度の見込。 また、当事業に関わる特別支援教育の専門家に、特異な才能のある児童生徒への対応や教員に伝えたいことなどに関して話を聞いた内容について記事化し発信する取り組みも行う。	<ol style="list-style-type: none">1 オンラインチャットサービスによる相談受付<ul style="list-style-type: none">チャットサービス上に随時質問などを投稿できるようにし、専門家及び研修を受けた保護者のピアサポーターが質問に回答をする。2 「はじめての親の会」の実施<ul style="list-style-type: none">チャットサービスに保護者が入る前に、「はじめての親の会」を通じて自身の求める内容と提供内容のマッチングを図る。原則月1回、オンラインで実施をし、特異な才能を有する児童生徒の特性や保護者としてどのように接するのがよいかといった基礎的なレクチャーと保護者同士の交流会を実施する。3 子どもの様子に関する保護者へのフィードバック<ul style="list-style-type: none">申請団体がオンラインで実施している子ども支援活動へ月1回無料で参加できる日を提供する。子ども支援活動では、年齢の近い大学生が丁寧に子どもの話を聞き、子ども自身の興味関心を深めたり、その内容について子どもたち同士で共有したりする機会を提供する。子ども支援活動での子どもの様子などを記録し、保護者へのフィードバックへとつなげられるようにする。4 「継続親の会」の実施<ul style="list-style-type: none">原則月1回、オンラインにて、専門家や特異な才能を持つ当事者による勉強会や、保護者同士で日頃の悩みなどを相談し合う集いを開催する。

(1) 相談支援の体制

相談支援体制は、以下の通りの形で実施した。

まず事務局を申請団体が担い、事務局には教育学・心理学に知見を有するスタッフを1名常勤で配置し、さらに団体スタッフが他事業部での知見などを積極的に還元している。事務局スタッフは単に事務処理をするだけでなく、自身の有する知見を活用し、保護者や教職員からの意見を踏まえた事業の改善検討、団体ホームページにおける告知や実施報告等の情報提供を速やかに行っている。また、資金の適切な運用のため、団体経理職員および経理担当理事が事務局業務の一部を担っている。

相談支援にあたっては、教職員支援ユニットと保護者支援ユニットを設置し、専門家（非常勤）を配置した。なお、両ユニットの知見を結びつけ、効果的な支援を行うため、両ユニットに医師免許を有する佐藤と博士（人間科学）および教員免許（小中高特別支援）を有する伊藤を配置し、両者は週1回以上の会議を設け、支援情報の交換を行った。

表2 専門家メンバー

氏名	所属・専門	役割
伊藤駿	広島文化学園大学専任講師、NPO 法人日本教育再興連盟（申請団体）理事。博士（人間科学）。専門は特別支援教育、ギフテッド児童生徒を含むインクルーシブ教育、比較教育学。	【教職員支援ユニット・保護者支援ユニット】 専門家間のコーディネート、特に特別支援教育およびインクルーシブ教育の観点からの相談対応。
佐藤駿一	東京大学医学部附属病院医師、どんぐり発達クリニック非常勤医師。NPO 法人日本教育再興連盟（申請団体）スタッフ。精神科医。どんぐり発達クリニックで多くの特異な才能を有する児童生徒への診療へあたっている。	【教職員支援ユニット・保護者支援ユニット】 専門家間のコーディネート、医学および心理学の観点からの相談対応。
石田祥代	千葉大学教授。博士（心身障害学）。専門はインクルーシブ教育、比較教育学、障害児教育。科研費課題「インクルーシブ教育理論から優秀児の教育的支援を展望する萌芽的研究」に取り組んでいる。	【教職員支援ユニット】 特別支援教育、障害児教育の観点から教職員への助言を行う。
中道圭人	千葉大学教授。博士（教育学）。専門は幼児教育、発達心理学。ワーキングメモリー等に注目した子どもの発達に関する業績を有する。また、上記の石田氏による科研費課題の研究分担者でもある。	【教職員支援ユニット】 発達心理学の観点から教職員への助言を行う。
是永かな子	高知大学教授。博士（教育学）。専門は比較教育学、障害児教育。上記の石田氏による科研費課題の研究分担者であり、特に成人した特異な才能を有する若者への調査経験を豊富に有する。	【教職員支援ユニット】 教育学、障害児教育の観点から教職員への助言を行う。

Divya Jindal-Snape	英国ダンディー大学（University of Dundee）教授。博士（心身障害学）。特別な教育的ニーズを有する子どもたちのトランジション（移行）を専門とする。	【教職員支援ユニット】 国外事例をもとに本事業へのアドバイスをを行う。
Margaret Sutherland	グラスゴー大学（University of Glasgow）教授。博士（学校教育学）。ギフテッドの子どもおよび成人への教育を専門とする。	【教職員支援ユニット】 国外事例をもとに本事業へのアドバイスをを行う。
田尻智哉	岡本台病院精神科医師。発達障害や特異な才能を有する児童生徒の診療に多くあたっている。	【保護者支援ユニット】 医学の観点から保護者の相談に対応する。
宮尾益知	どんぐり発達クリニック院長。医学博士。ギフテッド傾向のある児童生徒の診療を行っている。また関連著書多数。	【保護者支援ユニット】 多くの症例をもとに医学の観点から事業へのアドバイスをを行う。

教職員支援ユニットには、自身の所属する大学の附属学校等で多くの助言経験を有する、石田祥代（千葉大学教授）、中道圭人（千葉大学教授）、是永かな子（高知大学教授）を招き、就任いただいた。特に石田教授は現在特異な才能を有する児童生徒に関する研究について科研費を獲得したり、発達障害学会学会誌で同様のテーマの特集を組んだりするなど多くの知見を有することから、ユニット統括としての役割を担っていただき、事業開始の際に多くの助言をいただいた。さらに、教職員支援に関して、英国ダンディー大学（University of Dundee）のDivya Jindal-Snape 教授、グラスゴー大学（University of Glasgow）のMargaret Sutherland 教授にも伊藤が訪英した際にアドバイスをいただいた。両名とも特異な才能を有する子どもたちを含んだインクルーシブ教育の専門家であり、特に Sutherland 教授はスコットランドにおいて特異な才能を有する子どもたちの支援ネットワークである「The Scottish Network for Able Pupils」の代表を務めている。

保護者支援ユニットは保護者自身だけでなく、子どもに関する相談が多く寄せられることが予想される。そこで、特異な才能を有する児童生徒の治療の経験を多く有する精神科医の佐藤駿一（東京大学・どんぐり発達クリニック非常勤医師）が保護者への相談支援において中心的役割を担っている。また、専門的な心理カウンセリングなどではなく保護者同士による意見交換、すなわちピアサポートが求められているケースが多く見られるため、より専門的な支援は先の専門家スタッフが対応しつつも、即時的な対応が求められたり、様々なケースを聞きたいといったりするニーズに回答できるよう、ピアサポートの仕組みも支援体制に組み込んだ。このピアサポート体制は、すでに申請団体とつながっていたおおよそ 250 家庭の中から立候補によって選出した 4 名に依頼をした。さらに、これらの専門家スタッフ、ピアサポーターに対するアドバイザーとして、宮尾益知氏（どんぐり発達クリニック院長）に定期的な助言をいただける体制で本事業を実施し、1 月には宮尾氏に推薦いただいた講師を招き、ピアサポーターへの研修も実施した。

（２）取組内容

<経過>

月	取組内容
---	------

4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月16日(日)13時半 はじめての親の会 ◆参加者数 19名 ● 4月22日(土)14時から16時 継続親の会 ◆テーマ『世界のギフテッド教育～ノルウェーの教育研究者による発表』 ◆参加者数 20名
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月21日(日)13時半から15時半 はじめての親の会 ◆参加者数 20名 ● 5月27日(土)9時半から11時半 継続親の会 ◆テーマ『当事者との交流会』 ◆参加者数 13名 ● 5月22日(月)16時半 先生向け相談会 ◆開催場所 オンライン (Microsoft Teams) ◆参加者数 6名
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 6月11日(日)10時から12時 はじめての親の会 ◆参加者数 20名 ● 6月24日(土)10時から12時 継続親の会 ◆テーマ『公開相談会』 ◆参加者数 34名 ● 6月12日(月)16時から17時半 先生向け相談会 ◆開催場所 千葉大学 ◆参加者数 9名
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月9日(日)13時半から15時半 はじめての親の会 ◆参加者数 19名 ● 7月30日(日)14時から16時 継続親の会 ◆テーマ『アメリカのギフテッド教育の勉強会』 ◆参加者数 13名 ● 7月22日(土)10時から11時半 先生向け相談会 ◆開催場所 オンライン (Microsoft Teams) ◆参加者数 15名
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月6日(日)14時から16時 はじめての親の会 ◆参加者数 15名 ● 8月3日(木)14時から15時半 先生向け相談会 ◆開催場所 広島文化学園大学、オンライン (Microsoft Teams) ◆参加者数 5名 ● 教職員対象個別相談 2件
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 9月8日(日)13時半から15時半 はじめての親の会 ◆参加者数 17名 ● 9月23日(土)9時から10時半 継続親の会 ◆テーマ 『保護者同士の交流会』 ◆参加者数 ● 9月9日(土)10時から11時半 先生向け相談会 ◆開催場所 オンライン (Microsoft Teams) ◆参加者数 11名 ● 教職員対象個別相談 メール相談1件
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月22日(日)10時から12時 はじめての親の会 ◆参加者数 16名 ● 10月28日(土)9時から10時半 継続親の会 ◆テーマ 『公開相談会』 ◆参加者数 ● 10月22日(日)14時から15時半 先生向け相談会 ◆開催場所 名古屋市内会議室 ◆参加者数 7名 ● 教職員対象個別相談 1件
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 11月5日(日)9時半から11時半 はじめての親の会

	<ul style="list-style-type: none"> ◆参加者数 16名 ● 11月19日(日)9時から10時半 継続親の会 ◆テーマ『学校側がどう考えているのか』 ◆参加者数 ● 11月9日(木)16時半から18時 先生向け相談会 ◆開催場所 オンライン (Microsoft Teams) ◆参加者数 6名 ● 教職員対象個別相談 2件
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 12月3日(日)9時から10時 はじめての親の会 ◆参加者数 22名 ● 12月3日(日)10時半から12時 継続親の会 ◆テーマ『教育側視点(伊藤)による、公開相談会』 ◆参加者数 ● 12月3日(日)13時半から15時 先生向け相談会 ◆開催場所 オンライン (Microsoft Teams) ◆参加者数 7名
1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月27日(土)9時から10時 はじめての親の会 ◆参加者数 21名 ● 1月27日(土)10時半から12時 継続親の会 ◆テーマ ◆参加者数 ● 1月27日(土)13時半から15時 先生向け相談会 ◆開催場所 京都市丸太町事務所、オンライン (Google Meet) ◆参加者数 7名 ● 教職員対象個別相談 1件 ● 1月23日(火)ピアサポーター向け研修 「ディスレクシア協会名古屋」吉田様による、15年以上親の会を運営してきた経験を元にしたお悩み相談会を実施。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月6日(火)16時半から18時 先生向け相談会→当日の参加がなく中止 ● 2月18日(日)14時から16時 はじめての親の会 開催予定 ● 2月25日(日)10時から11時半 継続親の会 開催予定 ● 教職員対象個別相談 1件実施予定
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月23日(土)先生向け相談会・はじめての親の会・継続親の会 開催予定 ● 教職員対象個別相談 1件実施予定

<内容>

対象	取組	実施回数	参加者数	相談内容/実施内容										
教職員	個別相談	7件 (内、メール相談1件) 2月・3月に+2件実施予定あり	9名	<p>相談者の属性は以下のグラフの通りで、相談者の半分以上は公立及び私立小学校に勤務されている方であった。</p> <p>教員歴 9件の回答</p> <table border="1"> <caption>教員歴の分布</caption> <thead> <tr> <th>教員歴</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0~3年</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>4~10年</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>11~20年</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>21年以上</td> <td>55.6%</td> </tr> </tbody> </table>	教員歴	割合	0~3年	11.1%	4~10年	33.3%	11~20年	11.1%	21年以上	55.6%
教員歴	割合													
0~3年	11.1%													
4~10年	33.3%													
11~20年	11.1%													
21年以上	55.6%													

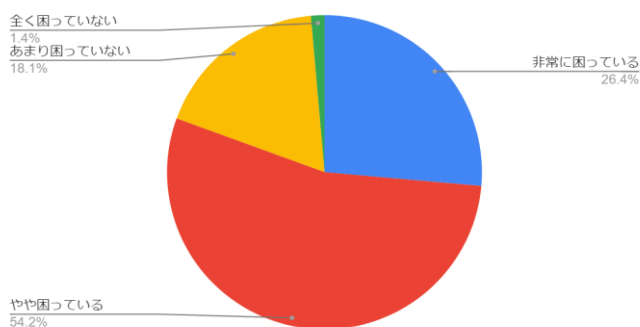
				<p>所属 9件の回答</p> <table border="1"> <caption>所属の割合</caption> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立小学校</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>私立小学校</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>22.2%</td> </tr> <tr> <td>フリースクール</td> <td>11.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>現在の役職 9件の回答</p> <table border="1"> <caption>現在の役職の割合</caption> <thead> <tr> <th>現在の役職</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>校長</td> <td>1</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>副校長</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>養護教諭</td> <td>2</td> <td>22.2%</td> </tr> <tr> <td>特別支援コーディネーター</td> <td>2</td> <td>22.2%</td> </tr> <tr> <td>通級指導教室の担当</td> <td>3</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>特別支援学級の担当</td> <td>1</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>学年主任</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>担任 (通常学級)</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>副担任 (通常学級)</td> <td>1</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>スクールカウンセラー</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教育委員会所属</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>特別指導巡回指導教員</td> <td>1</td> <td>11.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>相談内容は下記の通りで、専門家が1対1で相談を受け、対応策のアドバイスを行った。 小学校低学年、男子児童に関する相談が多く、学習面に関する相談もあったが、生活面の困りに関する相談の方が多かった。</p> <p><学習面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字ドリルをやりたがらず、学習を指示されることを嫌う。」 ・「授業デザインを行うにあたって、どういった観点や配慮を考慮しながらグループ分けや、課題設定をするのがよいか分からない。」 <p><生活面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衝動性を抑える支援や指導の仕方を知りたい。」 ・「正義感が強く、許せないものが多く、イライラしてしまう。」 ・「勉強はできるが、スケジュール管理などができない。」 ・「保健室登校をしており、通常学級の復帰を望んでいないが、どうしたらよいか。」 	所属	割合	公立小学校	33.3%	私立小学校	33.3%	特別支援学校	22.2%	フリースクール	11.1%	現在の役職	人数	割合	校長	1	11.1%	副校長	0	0%	養護教諭	2	22.2%	特別支援コーディネーター	2	22.2%	通級指導教室の担当	3	33.3%	特別支援学級の担当	1	11.1%	学年主任	0	0%	担任 (通常学級)	0	0%	副担任 (通常学級)	1	11.1%	スクールカウンセラー	0	0%	スクールソーシャルワーカー	0	0%	教育委員会所属	0	0%	特別指導巡回指導教員	1	11.1%
所属	割合																																																							
公立小学校	33.3%																																																							
私立小学校	33.3%																																																							
特別支援学校	22.2%																																																							
フリースクール	11.1%																																																							
現在の役職	人数	割合																																																						
校長	1	11.1%																																																						
副校長	0	0%																																																						
養護教諭	2	22.2%																																																						
特別支援コーディネーター	2	22.2%																																																						
通級指導教室の担当	3	33.3%																																																						
特別支援学級の担当	1	11.1%																																																						
学年主任	0	0%																																																						
担任 (通常学級)	0	0%																																																						
副担任 (通常学級)	1	11.1%																																																						
スクールカウンセラー	0	0%																																																						
スクールソーシャルワーカー	0	0%																																																						
教育委員会所属	0	0%																																																						
特別指導巡回指導教員	1	11.1%																																																						
	相談会	11回 (年度内+1回予定)	のべ72名 (2月開催分まで)	<p>毎回以下のプログラムで実施している。</p> <p>①レクチャー2本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特定分野に特異な才能のある児童生徒の特徴と抱える困難」佐藤駿一（児童精神科医） ・「学校現場でできる支援と方策」伊藤駿（広島文化学園大学講師（専門：特別支援教育）） <p>②希望者による上記2名への相談会</p> <p>各回参加者の2~3割が参加し、日頃の指導における悩みの相談を受けた。</p> <p>申込者の所属は以下の分布で、公立小学校からの参加が約半分を占めていて、保護者支援のオンラインチャットに参加している保護者経由での紹介で参加した教員が多く見られた。</p>																																																				

また、小中学校の教員の参加を優先しつつも、残枠はフリースクール等の支援者にも開放しており、そこからの参加が2番目に多かった。さらに、未就学の時点から悩みを抱える家庭も多いことから、1月からは幼保の先生にも参加対象を拡大している（現時点で参加はなし）。

所属	全体における割合
公立小学校（国立を含む）	47.3%
不登校児向けフリースクール、NPO、療育センター等の支援員	23.1%
公立中学校（国立を含む）	12.1%
私立小学校	1.1%
私立中学校	1.1%
特別支援学校	3.3%
教育委員会等行政機関	6.6%
大学教員	1.1%
学生	3.3%
メディア	1.1%

また、申し込み時点での現場での困り感については、以下の通りであった。現時点で困り感を抱えていない勉強目的での参加も一定数見られるが、特異な才能のある児童生徒への支援の必要性に関する認知拡大という点で意味があると考え、引き続き歓迎していきたい。

「該当の児童生徒への指導・支援において、困り感はどの程度ありますか」



(2月2日時点の申込者による回答 N=72)

	EDUPEDIA	2 記事		当団体が運営する教員向け WEB サイトに、教員向け個別相談を担当する専門家へのインタビュー記事を掲載。特異な才能のある児童生徒への対応について、教員に伝えたいことを聞き取りまとめている。現在 2 記事公開中で、来年度にかけて全 4 記事公開予定。 また、個別相談の内容を匿名化して記事にする試みも進行中で、来年度公開開始予定。
保護者	オンラインチャット	常時	165 名 (2024/2/5 時点)	トークルームを「自己紹介」「雑談」「質問」「情報共有」の 4 つに分けて運営しており、それぞれピアサポーターを中心に、保護者同士のコミュニケーションが行われている。育児の悩みを吐露した投稿に対し、共感やアドバイスが寄せられる流れが基本で、温かく前向きな雰囲気があると感じる。保護者同士のコミュニケーションを大事にしているが、専門家も複数参加しているため、必要に応じてコメントを入れるケースもある。
	はじめての親の会	10 回 (年度内+2 回予定)	185 名 (1 月開催分まで)	月に 1 回、毎回以下の内容で開催していて、募集開始直後に定員 20 名がすぐに埋まる状況が続いている。 ①専門家レクチャー

				<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤駿（広島文化学園大学講師（専門：特別支援教育）） ・佐藤駿一（児童精神科医） <p>の2名が、教育・医療のそれぞれ面から「ギフト」の特性や支援などについてレクチャーを実施。</p> <p>②保護者さま同士の交流会 参加者の方々同士でお悩みなどを共有し合っていたく時間。</p>
	保護者への子どもの様子のフィードバック	随時		<p>月に1回オンラインで開放している子どもの居場所を無料で開放し、参加した子どもの様子で特筆すべき点があれば保護者にフィードバックしている。</p> <p>また、保護者向けのオンラインチャットに日頃子どもと関わっている大学生スタッフが参加し、子どもとの会話の一コマなどを投稿するなどして、子どもの様子を伝える取組も行っている。</p>
	継続親の会	10回 (年度内+2回予定)	のべ 345名	<p>専門家による勉強会、当事者による体験談、保護者同士によるグループワークをローテーションしながら、月に1回開催している。</p> <p>勉強会は、伊藤や佐藤からのほか、教職員支援ユニットに属する先生方や外部の講師に登壇を依頼しながら、幅広いテーマで実施しており、毎回終了後にはオンラインチャットにてポジティブな感想が多く寄せられている。</p> <p>毎月参加している保護者も多く、この会の存在が日々の子育てのモチベーションになっているといった声も聞かれた。</p>

<評価>

アンケート等によって直接評価を得ている取組について以下に記載する。

対象	取組	評価概要
教職員	個別相談	<p>【相談直後のアンケートより（回答5件）】</p> <p><相談者満足度>4.6点 / 5点満点中</p> <p><感想（抜粋）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に説明してもらえて、なぜそうすべきなのかも納得できて、前向きな気持ちになれました。 ・悩みを丁寧に一つずつ聞いてくださり、そのことについて都度的確なアドバイスを頂けたことは、明日からの校務に活かせるだけでなく、自分自身の心の糧にもなりました。また子どもたちのことを頭では理解しつつも、周りとの調和を気にし過ぎていた自分の考えにも気付くことができました。 ・学期単位、あるいは半年に1回ほどでも継続的に相談させていただければ幸いです。 <p><「今後どのような対応をしてみたいか」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強面：「授業の仕方を工夫する」、「授業中、本人に与える課題を工夫する」 ・生活面：「本人への指導の仕方を工夫する」、「学校の中に居場所を用意する」 ・友人関係：「本人への指導の仕方を工夫する」、「学校の中に居場所を用意する」 ・子どもと教職員との関係性：「他の教職員と情報共有を行う」、「他の教職員に、このように配慮して欲しい、ということ伝える」、「その子の困難感や悩みについて考えてみる」 <p>【相談から3か月後に取ったアンケートより（回答3件）】</p>

		<p>すべての回答者が、子どもの特性を踏まえ、何らかの対応を新たに実施したと回答していた。</p> <p><「一番工夫した対応について、具体的に何をしたか教えてください」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援学校に相談をして学校訪問をしてもらい、一日の流れがわかることで安心して取り組めるようになるため授業の流れを提示した。 ・教員の理解を深めるための校内研修会を実施した。 ・話をするときに、順序立てて話せるように、ワークシートを作ってみた。
	相談会	<p><参加者満足度></p> <p>満足度 4.43点 / 5点満点中 (回答 60件)</p> <p><感想抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らないことが多いので、これから学んでいきたいと思います。 ・質疑応答で、実際に困難を抱えていらっしゃる先生方のお話をお聞きし、手触り感を持ってその困難を感じる事が出来ました。 ・正直に申し上げて、特定分野に特異な才能のある児童生徒やその支援に対して、穿った見方をしていたところもあり、あまりいいイメージを持っていなかったのですが、今回真摯にお話をさせていただいたことで、随分と理解が深まると同時に優しいイメージを持つことができました。 ・今担任している児童の難しさについて、理解する大変良い機会となりました。講話の内容にあった特性があまりにも当てはまり、驚いています。学校で今日の話を共有し、児童へのより良い支援方法を検討していきたいです。
保護者	オンラインチャット	<p>最近入った人も過去の投稿を全て見られるようになってきているため、同じような悩みを抱えた人がいるんだという気づきに繋がっており、以下のような書き込みが多く見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じような悩みや困り事、思いをされている方々がいらっしゃると知り、上手く表現できませんが、何だかほっと…しました。困り事もあります。皆さんと繋がることで、良い方向に進めたら…と思っています。 ・ギフテッドのことについて、なかなか周りには話せないことも多く、自分が息子について動いていることはこれは良いのか？やりすぎなのか？と確認する場所もなく、1人ですごく不安だった中 spring さんを見つけました。皆さんのやりとりをみてすごく共感して、こういう考えもあるのかとはっとしたりといい刺激をすでに受け取っています！
	はじめての親の会	<p>今年度参加者の満足度：平均 4.2/5 段階</p> <p>「これまで人に子育ての悩みを話せずにして孤独を感じていたが、同じような家庭があるのだと知って楽になった」という主旨の感想が多く寄せられた。</p>

3. 相談支援の在り方

1年目の取り組みを通して、相談支援の在り方として以下のように考えることができる。まず、相談支援業務については、事務局と専門家に加えて、相談者のニーズと専門家の専門性のマッチングを行う、いわばコーディネーターが必要であると考えられる。今回実施団体は事務局を約3名の職員（いずれも非常勤）と8名の専門家（いずれも非常勤）で対応をしているが、人員として余裕のある配置ではなかったことから定期的な相談機能を果たすためにはこれだけの人数が最低限必要であることは間違いない。

また専門家たちには、特定分野に特異な才能を有する子どもの抱える困難がさまざまなディシプリンによって捉えていくことが必要であることから様々な専門性が必要である。もちろんこの専門性を一人の専門家が担うことは不可能であり、多様な人材を確保し、上述のコーディネータ

一のもとでそれぞれの専門性を発揮することが必要である。今回の取り組みの中で必要であると感じた専門性としては、ギフテッドに関する知見、学校教育や福祉制度へ理解、既存の支援リソースについての知見を有し接続が可能であること、教員や保護者は行き詰まり感を覚えているところからも傾聴のできることといったことが挙げられる。

1年目の取り組みでは毎回の相談可能時間に相談があったわけではない。特に自身の子どもや目の前にいる児童生徒が特定分野に特異な才能を有するかどうかもわからないという人は少なくない。そのため、相談支援員を配置することはもちろん、どういったことの相談が可能なのかといったことの発信が強く求められていると考えられる。

また、1年目の中では、保護者と学校のそれぞれの子どもへの見立ての「ズレ」が大きいことを強く感じている。そのことを踏まえれば、学校と保護者の間を取り持つ機能も必要である。しかし、個人情報の保護の観点などからなかなかケース会議の実施までには至っておらず、この点については教育委員会等との連携を通して事例づくりにつとめていきたい。

4. 参考資料

・教員向けWEBサイト EDUPEDIA 掲載記事

【伊藤駿先生インタビュー】「特異な才能」と学校①～必要な支援とは？～

<https://edupedia.jp/archives/33948>

【是永かな子先生インタビュー】「特異な才能」と学校②～北欧の事例から考える～

<https://edupedia.jp/archives/36084>